

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200303		
法人名	社会福祉法人 紫波会		
事業所名	「グループホーム やすらぎ」		
所在地	岩手県紫波郡紫波町桜町字三本柳46-1		
自己評価作成日	平成24年7月3日	評価結果市町村受理日	平成24年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0372200303-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを特に意識しています。介護度が1から5までとケアの違いが大きいので、全員で行う行事は「夕涼み会」「長寿を祝う会」「忘年会」のみとし、バスハイクもADLにあわせて企画し、希望外出はご家族からのアンケートをもとに実施しています。カンファレンスはご家族の参加も頂き、毎週火曜日の10時から、訪問看護の来荘時に行っています。ほとんどのご家族が都合をつけて参加していただいているので、常に身近な内容のプランになっています。また、去年はじめて地域交流事業の「やすらぎ珈琲館」を今年は6回の開催予定で行っています。今年の新たな取り組みとして、もっと地域の方と交流するためにけやき学園に協力を頂き、ウエイターとしてスタッフに加わっていただいたり、けやき学園の商品を販売する売店コーナーを設けて開催しております。珈琲館のおやつは職員の手作りで、特別養護老人ホームやデイサービスの利用者が食べやすいようにし、気楽に来てもらえるよう心掛けてます。

利用者の個別ケアを重視している。利用者個々の残存能力を生かす支援をさりげなく行っており、ホーム全体がゆったりした流れの中で、利用者も職員も明るい雰囲気の日常生活を送っている。事業所内は天窓等からの採光が良く、広く感じさせる共用のフロアと個室である。また、グループホームやすらぎを訪ねていただく人を多くするための方策の一環として、「やすらぎ珈琲館」を開設し、ボランティアでけやき学園(紫波町の知的障害者授産施設)の通所者からの支援を得ながら、利用者との交流の場にもしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やすらぎ会議等で皆で意見を出し合いながら取り組んでいます。	母体法人の理念、「個人の尊厳を守り、人間愛を持ち続け、地域と共に歩む」を基に、事業所としては、職員が考えた「ゆっくり・いっしょに・笑顔で」をモットーに、全職員が取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年から地域の人にも気軽に足を運んでもらえるよう「やすらぎ珈琲館」を企画し、実施しています。今年度は就労支援事業所のけやき学園の通所者の方に協力していただき一緒に開催し、より地域と密着して行っています。	地域組織に事業所としては加入していない。行政区の一斉清掃には、職員や可能な利用者も参加している。また、地域に呼びかけて忘年会をやったり、祭りへの参加、交流をすすめるため、事業所内に「やすらぎ珈琲館」を開設している。	珈琲館での地域との交流を進めつつ、行政区長等の地域自治との関わりの工夫と、地域について理解されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症なんでも相談所」として、地域の認知症や介護の困りごとなどへ対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の大震災後、冬場の夕食時間帯の停電を想定した避難訓練を実施したところ、定期的に行ってはどうかとの意見を頂き、今年も実施予定をしています。	2ヶ月に1回、運営推進会議をやすらぎ珈琲館でもっている。事業所側からの諸報告への質疑や、委員からの意見など、双方向的な会議になっている。委員からは防災への取り組みや、やすらぎ珈琲館へのボランティア活用についての意見があった。	運営推進会議の委員として、多方面の意見、そして地域の意見を反映させるためにも、外部の委員の選任のあり方を工夫されるよう、期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に担当者が参加しています。町内の地域密着型サービス事業所で町の担当者と話し合いを持ち、活動しています。	研修、ケアサービス会議等の場所に、やすらぎ珈琲館を利用させていただいたり、交流をする機会にもなっている。また、随時情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の心理的苦痛を理解し、拘束排除に向け取り組んでいます。昨年、離脱事故が2件あり、玄関を自動ドアに変えています。しかし、他のドアには鍵も無く、夏場はオープン状態なので、ほとんど自由に過ごされています。	やすらぎ身体拘束廃止マニュアルによって研修し、職員は取り組みについてのあり方を共有して、ケアにあたっている。利用者の自由な行動を認めながら、さりげなく見守ることに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	やすらぎ会議等で虐待についての勉強会を実施しています。ネグレストや言葉の虐待が無意識に行われていないか皆で意見を出し合いながら取り組んでいます。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会で行われた権利擁護についての講演会に参加し、資料を参考に施設内で勉強会を開催しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の面接や契約の際、よく話をうかがうようにしています。特に利用料以外に発生するお金のことについては、具体的に説明するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れを行っています。意見箱を設置しています。運営推進会議にはご家族にも参加していただき、意見を伺っております。カンファレンス時にもプラン以外のこともお話しされる家族さんもいるので聞くようにしています。	年1回の家族会議、運営推進会議、カンファレンスなど、いろいろな場で家族等の意見を求めており、食事内容の意見を反映させるなど、要望は可能な限り反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署での会議、主任会議で提案しています。	会議、申し送りノート、日常の会話の中からなど、職員の意見が出されるが、出された意見、要望を運営者、管理者はよく聞くようにし、可能なものは反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施しています。23年度より職務の成績評価により給与査定を実施し、モチベーションアップにつなげる取り組みをおこなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の職場研修計画に基づいて人材育成が行われております。現場の実情に即した勉強会を部署で実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の県やブロックの定例会や研修に出来るだけ参加し、情報を得たり交流する機会としています。町内の地域密着型サービス事業者会議に参加し交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設への入所は本人にとって人生の大きな節目と考えています。入居を検討する際は本人の気持ちに添ったやりかたで出来るよう様子を伺いながら進めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様ですが、家族には家族の悩み・要望があります。よく話をするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申請をしても直ぐにサービスが利用できるとは限らないので、相談の時点で、本人や家族の求めている生活に近づくためにどうするか、今困っていることへの対応をどうするか話し合い、必要なサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かをする時は、一緒に行く・一緒に見る・一緒に楽しんでいます。介護しているというよりは、こうすればできることやこうすれば安全に出来ることを共有しながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子・認知症の進行具合・本人のかかえている病気など、家族に説明し、何が一番本人に必要なのか話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はアンケートをとり、馴染みの場所・行きたい場所・行ってみたい場所を聞きました。実家のある二戸に行った方、入所前によく行っていた須川温泉を希望する方さまざまでした。もちろん、普段の生活でも、美容院や自宅外出などは継続中です。	馴染みの場所について全家族にアンケートし、100%の回答を得た。それに基づいて、現在まで7件について実施し、2件について今後実施に向けて取り組む。これは家族も同伴することで、経費はグループホームが負担することになっている。今後はやすらぎ珈琲館を活用し、馴染の人との交流も実現したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆、お互いを思いやる気持ちがあり、自分の居場所も確保でき非常に良い関係が保たれていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院すると、施設に戻れないのではないかと心配されます。治療が長引き転院が必要になった場合は次の受け入れ先の相談に応じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの過程で、本人・家族の思いを聴き、施設でできる最大限のケアを提供したいと思っています。	センター方式のアセスメントや、日常の利用者の言動の中から、希望や意向を把握するように努めている。把握できたことについては、全職員が共有することになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は自宅に出向き、普段どのような環境で暮らしていたのか把握します。どうしても自宅と同じには出来ませんが、その中でも生活習慣は変えないよう、こちらのやり方に合わせないよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気分や体調・季節の変わり目などで状態は大きく変わりますが、調子が良く会話が弾む時は、調理や食器洗い・食器拭き・洗濯干し・洗濯たたみなどお願いしています。日誌に記録し、できれば継続できるよう「気づきノート」などで申し送っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリング・カンファレンスを実施しています。ご家族にも事前に連絡し、出来るだけ参加をお願いしております。	カンファレンスで、ケアマネ、家族、本人、担当職員、訪問看護者などの意見をまとめ、ケアマネが作成した計画によりケアに取り組むと共にモニタリングをし、3ヶ月ごとの見直しを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に細かく記録しております。日誌も一目で状態がわかるように様式を工夫し「水分量」「排泄」「貴重品管理」「居場所確認の把握」がわかるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が安心してグループホームを利用できるように、支援できることには対応しています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の中学生やウクレレ演奏のボランティアの方がときどき来てくれて楽しませてくれます。また、医療連携を近所の訪問看護ステーションにお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居までに通院していたかかりつけの医師との関係を継続するようにしています。通院は家族の状況により誘引介助を行ったり、対応できる家族にはお願いしています。	かかりつけ医は、利用者個々におり、緊急時を除き、通院支援は家族が行っている。週1回の訪問看護は、全利用者を対象にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤者・夜勤者の申し送りを「気づきノート」記録し、全員で状態を把握し、体調の変化が見られる時は訪問看護に来てもらっています。急変時は直ぐに受診するようしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は「医療・介護連携シート」にて情報を提供しています。病棟看護師に普段の生活について直接情報提供しています。入院中も訪問して、情報交換や退院時の対応について相談しています。退院時は、看護サマリー・リハサマリーの提供をお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のアセスメント・定期的カンファレンス時には本人や家族から重度化や終末期にどの様になりたいか希望を聞いています。医療連携の指針は説明しています。協力医療機関は入院対応ができないので、重症化が見られれば他の専門医に紹介していただくなど協力していただいています。	医療連携について入居時に説明し、同意書を取り交わしている。重度化、終末期への支援は、常々のカンファレンス等で、利用者、家族の意向を把握するようにしている。その上で、事業所としての「指針」を職員が共有し、でき得る限りの対応ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は救命救急の講習会受講を全員で行う予定です。AEDが設置されているので、活用できるよう確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しています。訓練時は隣の特別養護老人ホームと医療関係も合同で行い、地元の協力隊の方々にも参加して頂いています。	マニュアルによって年3回(母体のものも含め)の訓練を実施している。地域消防団へは協力をお願いしている他、地域住民の方々からの協力を得て実現するように努めていきたいと考えている。3.11の経験から非常用食料・備品を準備している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の気持ち汲み取り、言葉の選び方、声の掛け方、対応に配慮しています。具体的にはケアプランに上げています。	利用者の人格尊重やプライバシーの確保のあり方について、内外の研修を経て職員の意識の高まりと共有化に努め、利用者本人の気持ちを考えて、さりげない支援のしかたに努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴も本人が入りたくないときは時間をずらしたり、曜日をずらすなどしています。食事も、量を本人に聞き多いときは減らし、お変わりしたいときは食べていただいています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースにあわせて個別の支援に心がけています。個々が希望を表しやすいように、職員は接し方・態度に気をつけています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みのスタイルに整うよう支援しています。清潔に整えられるよう配慮しています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみは生活の中で大きな役割を占めていると考えています。献立作り、買い物、調理を入居者と一緒に行っています。片付けも共に行い、感謝の気持ちを伝えています。	献立は、利用者の希望を取り入れながら職員が作る。栄養指導は、隣接する特養の管理栄養士から月1回受けている。食事の準備、食事、片付けは利用者、職員共に行う。職員のさりげない支援の様子も伺えた。自分たちの菜園からの食材を利用している。食器類は利用者個人のものであった。雰囲気は明るい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	完全な栄養管理は出来ていませんが、メニューが偏らないようにバランスが取れるよう心がけています。最近、ミキサー食が2名・キザミ食2名になり、食事にはかなり気を配っています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けと夜間は毎日、ポリデントで洗浄しています。うがいの出来ない方は、口腔用ウェットティッシュを個々に準備し、使用しています。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排尿回数や量・排便の有無を確認しています。特に、朝食後のトイレ誘導は排便の確立が高いので、介助の担当を決めてタイミングを逃さないよう行っています。	できるだけ自分で排泄できるように支援しており、利用者一人ひとりのチェック表を確認しつつ誘導に努めている。現在、自立排泄3人、一部介助4人、全介助2人である。一部介助者には、パット確認、ズボンの上げ下げ等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響は、生活全般に及ぶ重要なことと理解し、水分・野菜・乳製品など食事量や運動量の確保を心がけています。下剤の滴数や浣腸も個々に応じて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応曜日は決めています、無理な誘い方は行っていません。週3回は入っていただくようにしています。	入浴日は、月、水、金または、火、木、土の割り振りで、1人週3回とはなっているが、基本的には利用者の希望によることにしている。夜間入浴も可能にしているが、現在は希望が無い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は食後は1ベットで休んでいただいています。昼夜のリズムが取れるよう、活動的に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からいただいた説明書をまとめたものを見やすい場所に置き、副作用についても直ぐに確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や季節に応じた飾り作りなど、強制はしない範囲で行っています。また、畑で野菜作りを行っているので、草取りや、プランターの水掛け仕事を行うなど、外に出る機会を多くとるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、本人とご家族からアンケートをとり、個別希望外出を行っています。現在5人の方がそれぞれ懐かしい場所や、行きたかった場所に出かけています。また、ご家族の協力で、入居前から通っていた美容院に現在も出かける方もいます。	利用者一人ひとりの希望に合わせた外出を心がけ、その実現に努めると共に、日常的には、朝、夕にプランターの花に水やりをしたり、花畑の手入れ、散歩などや買い物に出かけるなどしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布を持っている方もいらっしゃいます。外出するときは持っていわれているようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いたときにお礼の電話をしたりしますが、手紙のやり取りは行う方はいらっしゃいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心し、落ち着く空間作りになっています。食事する場所、畳の上でくつろぐ場所、面会者とゆっくり会話できる場所とわけています。風通しが悪く、西側の居室は室内の気温がかなり高くなるので、日をさえぎる工夫をし、換気に注意しています。	天窓からの自然採光が、空間全体をやわらかい光と和みを感じさせる。飾りつけなども過度にならず、共用フロアの中にたたみの間を設け、自由にくつろげる場とするなどの配慮もあった。また、神棚の設置が認められるなど、家庭的なものを感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席はだいたい決まっていますが、そのほかは思い思いに好きな場所で過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、普段使用しているものを持参するように勧めています。仏壇・ソファ [^] を持ってきた方もいます。	窓が大きく明るい部屋になっている。それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。個々にその人らしい部屋づくりをしており、利用者毎に支援していることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を応援できる環境作りになっています。手すり設置・転倒予防に注意しています。また、ポータブルの設置で排泄の自立支援をしています。		